○　宇治川先陣の碑

平家物語、梶原景季と佐々木高綱の宇治川の先陣争いの故事にちなんで 1931 年に建立された。

碑の右側にある小さな石碑は、宇治川で争われた主要な合戦が刻まれている。

ま

●　槇島公園

槇島城は、室町時代から安土桃山時代にかけて、槇島町薗場、大幡付近にあった城で、足利将軍家の家臣真木島氏が本拠としていたところである。この地は周りが川で囲まれた天然の要塞になっていたという。

１５７３（元亀４年）７月、織田信長に追われた室町幕府第 15 代将軍足利義昭は、京都から槇島城に居を移して挙兵するが、信長の猛攻に方途を失った義昭は、信長の軍門に降った。城は落城し室町幕府はこの地で滅んだ。

公園内には槇島城顕彰会によって「槇島城記念碑」が設置され、槇島合戦の内容を伝えている。

●　萬福寺

日本三禅宗のひとつ黄檗宗の大本山で、江戸時代 1661（寛文元）年 中国の僧隠元禅師によって開創された。建物は中国の明朝様式をとりいれた伽藍配置で、創建当時の姿を今日に伝えている。仏像では、大雄宝殿に安置されている十八羅漢をはじめ、布袋和尚像など中国の仏師范道生の作品が有名である。

境内の主要な建物 23 棟と 40 面の額、44 対の聯は重要文化財に指定されている。総門前、左右の龍目井の間に建つ**駒諦影園碑**は、茶種の蒔き方を宇治の里人に教えた明恵上人への感謝と、その功績を顕彰するため、1926（大正 15）年に宇治郡茶業組合によって建立されたものである。

山内の一角には、煎茶道の祖とされる売茶翁の像を安置する**売茶堂**がある。売茶翁は、仏教界の堕落への批判から、寺にあることも布施を受けることも潔しとせず、禅本来の精神を貫く生き方として、煎茶を売り歩くようになり売茶翁と呼ばれた。売茶堂のそばに**煎茶席「有声軒」**があり、ここに**全国煎茶道連盟の本部**がおかれており、毎年５月全国煎茶道大会がひらかれている。

また、境内には、菊舎の「山門を出れば日本ぞ茶摘み唄」の句碑がある。

当寺の名物、中国風精進料理の**「普茶料理」**は、見た目の華やかさと共にヘルシーな料理として人気を呼んでいる。

万葉歌碑

古代から政略上、交通上重要な場所であった宇治周辺はそこを往来する多くの旅人や住民達にその風景の美しさから強い印象を与え、深い文学的感動を呼び起こしたのであろう。萬葉集にも多くの宇治周辺の地名が詠み込まれ今日に残されている。

現在の宇治市内には、その萬葉集に詠まれた歌の内から六基が、市民の請願により、平成４年３月、宇治市教育委員会によってゆかりの地に黒御影石で建立された。

①　秋の野のみ草刈り葺き宿れりし、
宇治の京の仮廬し思ほゆ　　額田王
揮毫者　森　鵬父（書家　教育書道の会代表）　下居神社境内
大意「秋の野の草を刈って、その草で屋根を葺いて泊まった、宇治のみやこの仮小屋のことがなつかしく思われる」

②　もののふの八十氏河の網代木に
いさよふ波の行く方しらずも　　柿本朝臣人麻呂
揮毫者　古谷　蒼韻（書家　日展理事）　府立宇治公園橘島
大意「宇治川の網代木で一時停滞し、やがて行方知らずとなる波のように、滅びさった近江の都に仕えていた人々はどうなったのであろうか」

③　ちはや人宇治川波を清みかも
旅行く人の立ちがてにする　　作者未詳
揮毫者　佐々木宏遠（書家　日展会友）　宇治市観光センター前
大意「宇治川の川波があまりにも清らかであるからだろうか。旅人たちは、ここからたち去りがたく思っている」

④　宇治川は淀瀬無からし網代人
舟呼ばふ聲をちこち聞ゆ　　作者未詳
揮毫者　山本万里（書家　日展会友）　宇治川右岸朝霧橋上流眺望台
大意「宇治川には、流れの穏やかな瀬がないらしい。網代で魚を捕る人の舟を呼ぶ声が、あちこちで聞こえる」

⑤　そらみつ　倭の國　あおによし　　奈良山越えて　山代の
管木の原　ちはやぶる　　宇治の渡　瀧つ屋の
阿後尼の原を　千歳に　　闕くる事なく　萬歳に
あり通はむと　山科の　　石田の社の　すめ神に
幣帛取り向けて　われは越え行く　　相坂山を　　作者未詳
揮毫者　山本悠雲（書家　日展委嘱）　　大吉山登り口
大意　「大和の国の奈良山を越え、山城の国の管木の原、宇治川の渡し場、滝つ屋の阿後尼の原と続く道を、いつまでも欠かさず、永久に通いたいと、山科の石田の神社の神に幣帛を手向けて祈り、私は越えて行く、相坂山を」
古来、「瀧つ屋」については、その場所をどこに比定するかが問題であったが、元暦校本には「瀧」ではなく「隴」となっていることを確認（木下正俊関大教授）。「隴」の義は大岡であることから、これをタキツヤ（あるいはタキノヤ）と読む

のではなく、ヲカノヤ（岡屋）と読むべきとされた。この発見によって、場所が特定できなかった古北陸道がはっきりした。

⑥　妹らがり　今木の嶺に茂り立つ
嬬松の木は　古人見けむ　　作者未詳
揮毫者　西本大透　（書家）　　大吉山展望台

大意「妻の許へ今来たという名の今木の嶺に茂り立っている松。妻が夫の訪れを待つように、今も立っている松の木を、昔の人もきっと見たことであろう」

●　三室戸寺（明星山　修験宗聖護院派　西国三十三ケ所第十番観音霊場）

寺伝によれば、770～80（宝亀年間）光仁天皇が宮中の奇瑞から志津川の上流に金銅千手観音像を得、これを本尊（秘仏）として寺を建立したのに始まる。

天正元年、槇島合戦の際に、信長の焼き討ちにあい荒廃したが、近世になって本堂が再興された。鐘楼のそばには、源氏物語宇治十帖の古跡「浮舟」が立ち、寺務所前には、芭蕉の句碑「山吹や宇治の焙爐の匂うとき」がある。

霊宝殿には、重要文化財の阿弥陀如来及び両脇侍、釈迦如来、毘沙門天がある。鎮守社十八神社は、室町時代の建立で、重要文化財に指定されている。横には、「平家物語」の橋合戦で活躍した一来法師を祀った小祠がある。

●　明星町

明星町は、昭和 47 年６月９日に誕生した大字で、菟道山田から志津川西山にまたがる雑木林と田を、昭和 46 年に宅地造成したのが始まりである。

町名の由来は、北東に明星山が聳え、近くの三室戸寺の山号が「明星山」と号していることに由来している。

●　向島渡シ場町（京都市伏見区）

隠元橋の西詰「渡シ場」だったことがそのまま町名となった。
約 350 年前、隠元禅師が対岸に萬福寺を開いた折、向島の住民に「ここを『隠元渡シ』と名付け、舟の運行をしなさい」といったとの伝承がある。
コンクリート橋が完成した 1949(昭和 24)年頃まで向島側の農家が渡しを受持ち、モチノキの大木の下に床几を出して、客待ちをしていたという。

●　もみじ谷

白山神社の階段下を起点として、約１キロメートル、寺川の流れに沿って、宇治川畔の府道に出るまで続き、東海自然歩道の一部となっている。

白山神社近くと府道への出口辺は、古木や巨木が多く、樹齢 200 年の「いろはかえで」の群生や 250 年の「樅」の巨木は宇治市名木百選に認定されている。
この道は、秋の紅葉もよいが、新緑の頃も格別に美しい。

や

● 山城総合運動公園・太陽が丘

面積 100 ヘクタール（甲子園球場の約 25 倍）のわが国屈指の規模の総合運動公園である。各種運動競技場と、冒険の森や遊びの森を中心とした自然ゾーンと大きく二つのエリアに分かれている。

● 山本宣治の墓

「山宣（やません）」の名で親しまれる政治家、山本宣治の墓。正面には、「花屋敷山本家之墓」と彫ってあり、裏面には、家族碑銘と共に、「山本宣治 41 才、昭和４年３月５日没」とあり、山宣最後の演説の一節「山宣ひとり孤塁を守る、しかし淋しくはない…」が同志 大山郁夫の筆で刻まれている。毎年３月５日の命日には「山宣祭」が行われ遺徳をしのんで多くの有志がここに集う。

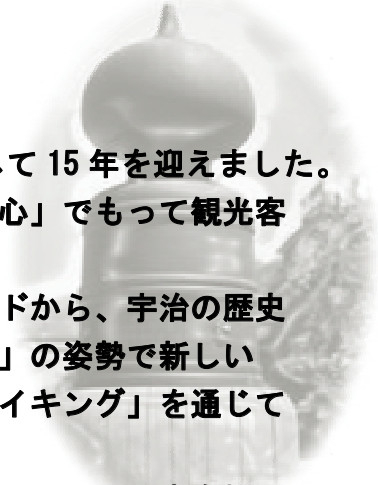
● 与謝野晶子歌碑

与謝野晶子は 1924（大正 13）年に夫の鉄幹と共に宇治を訪れている。源氏物語の魅力に惹かれていた晶子は、紫式部を師と仰ぎ、その現代語訳に渾身の熱情を注いだ。そして、五十四帖を五十四首の歌で詠んだ「源氏物語礼讃」によって歌人としての天分を発揮、宇治十帖の十首が彼女の真筆によってここに刻まれている。この歌碑は、晶子没後 50 年を記念して「みだれ髪の会」によって平成４年に建立された。

● 頼政道

1180（治承４）年、以仁王の平氏打倒の計画は事前に漏れ、王は園城寺（三井寺）に逃れたが、平氏に追跡され源三位頼政と共に奈良を目指した。その一行が園城寺から山科をへて、醍醐から宇治にぬけた間道は「頼政道」とよばれ、宇治市上水道平尾台ポンプ場前の公園に住民らの手によって記念碑が立てられている（平成３年）。その北側バス道路には、「頼政道」のバス停もある。

編集を終えて



私たち宇治観光ボランティアガイドクラブは平成８年に発足して 15 年を迎えました。その間、宇治の自然や名所旧跡などの観光資源を「おもてなしの心」でもって観光客の皆様にご案内してきました。

また平成１７年からは、お客様の申込みを待つ「受け」のガイドから、宇治の歴史や観光資源をもっと皆さんに知ってもらおうと、積極的な「攻め」の姿勢で新しいコースを提案し、ＪＲ西日本が進めてこられた「ＪＲふれあいハイキング」を通じて皆様に提供してきました。

企画コースはテーマとコースを設定し、下見に基づく検討、更にコースの安全性や休憩場所、かくれた観光資源の発掘などを求めて下見を重ね、最終的にコースを確定する。このような作業を積重ねた結果、７年間で２５回を越えることとなりました。

そこで、これまでの成果をまとめてみようという会員の提案もあり、今回、好評をいただいたコースを集めて「歩っぷ in うじ～今すぐ行きたい旬の名所２５選」として発行することにいたしました。

刊行に当たり、たゆまぬご指導、ご支援をいただいた宇治市商工観光課
（社）宇治市観光協会、ＪＲ西日本、マスコミ各社、各社寺のみなさま方に
厚くお礼申し上げます。

ささやかな冊子ではありますが、広く皆様方に活用していただければ、編集者としてこの上ない喜びです。

編集メンバー　三間　茂　前川 英一　岩佐 早智子
岸田 春二　重松 宏子　高田 京子　松澤 千賀

宇治観光ボランティアガイドクラブ
歩っぷ in うじ～今すぐ行きたい旬の名所 25 選

発　行　日　平成25年1月1日
発　　行　(社)宇治市観光協会
編 集 発 行　宇治観光ボランティアガイドクラブ
〒610-0021 宇治市宇治里尻 5-9 ゆめりあうじ1階
Tel・Fax　0774-22-5083
印　　刷　(有)新進堂印刷所
宇治市宇治妙楽9(あがた通り)

空に浮かぶ雲

その下には山があり

外からつながる道

そして街があり道がある

湖を源に川が流れている

ガイドのご用命は・・・
宇治観光ボランティアガイドクラブ
ＴＥＬ　0774-22-5083（ＦＡＸ兼用）
午前１０時～午後４時まで
Ｅ-mail　uji-guide@white.plala.or.jp